



第153号  
平成30年10月1日  
能代市教育委員会  
学校教育課

創刊 昭和42年10月10日  
題字 元能代市教育長 鎌田 宏

### 随想



「ワーク・アズ・ライフ」な生き方

能代第一中学校長

嶋 修

教員人生38年間の中で、特に情熱を注いだことの一つは、生徒が作る学校新聞の指導。きっかけは、東京都の公立中学校に採用されて7年目の昭和62年、ある荒れた中学校に赴任し生徒会を担当したと。生徒会執行部が発行する「正義を訴えるまともな意見を掲載したチラシ」は、配った瞬間に紙飛行機になるかゴミ箱行きだった。いくら正論を唱えても、「読まなければただの紙くず」と思い、「紙面を見た瞬間に最後まで読ませてみせる」を信条に、編集技術を研究し、指導力向上を図るよう無我夢中で取り組んだ。寝てる時間さえ、夢の中で新聞の編集や仕上げ作業をしているほどだった。そうして取り組んだ学校新聞の

指導者としての主な受賞歴は、全国学校新聞コンクール第1位は7回で、内閣総理大臣賞が4回、文部大臣奨励賞が5回だが、何よりもその受賞を生徒たちが伝統や誇りとして思い、学校の一つの文化として大切にしてくれたことだ。しかし、この教育実践は、ワーク・ライフ・バランスを維持しながらは到底できるものではなく、仕事が生活の一部となるワーク・アズ・ライフの生き方だからこそできたこと。子どもの才能を極限まで引き出すには、指導者もまた、極限まで取り組まなければできない。若い頃には無我夢中で自らの指導力を高め、教育と真剣に向き合い、積み重ねる時期が必要なんだよなあ、と退職を前にして思う。

### 随想



子どもたちの  
明るい未来を願って

崇徳小学校長

大高 幸美

私が採用された頃（S56年度）は、能代山本には小・中合わせて50校以上の学校がありました。それが今や33校まで減り、来年度には30校になってしまいます。32年度には27校に・・・僅か40年ほどの間に半分にまで減ってしまつたという現状。寂しい限りです。私はそのうちの2校（米田小・鯉川小（教頭）と、今年度は3校目（崇徳小）の閉校に携わっています。

どこの地域でも、子どもたちは地域の宝、地域の元気の源なのですが、特に小規模校を有する地域にとっては子どもたち、そして学校は特別な存在です。統合に係わる説明会の話合いの中で、また、閉校の記念事業を進めていく中で、地域の方々と深く関わりながら、その熱い思いを強く強く感じてきました。今も檜山の方々は、子どもたち・学校のためと惜しみない協力・応援をしてくださっています。本当にありがとうございます。「ラストだぞ 感謝をこめて パワー全開！」今まで応援してく

### 輝きの一場面



「響き渡る二中祭の詩」

H30. 9. 2 能代第二中学校

くださった地域への恩返しは、今年1年かけていろいろな形で感謝の気持ち（一生懸命な子どもの姿）を届けること、そして、子どもたちが統合先でも臆することなく元気いっぱい笑顔で過ごせるように育てていくことではないかと考え、「チーム崇徳」で、ラストまで全力でがんばっていきます。子どもたちが「崇徳の心」をいつまでも持ち続け、五小でもたくましく過ごせるように願ってやみません。